

大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m³あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		11/11~11/18	11/18~11/25
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.044
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.046
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.033
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.054
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.046
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.018
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.043
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.061

測定地点		放射能濃度 (mBq/m ³)	
		11/11~11/18	11/18~11/25
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.027
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出
		セシウム137	0.017

※検出限界値はおおむね0.02~0.03mBq/m³の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

● 渡邊正己 京都大学名誉教授
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説●

新年、明けましておめでとうございます。
 原発事故後10年の節目の年を迎え、大気浮遊じんの放射能測定は146回に達しました。
 環境を汚染した放射性セシウム137は消滅していませんが、近年の測定値は、自然放射線量の変動の範囲であり、今回の市内の大気浮遊じん中のセシウム137濃度は平均値が0.04mBq/m³±0.04と極めて低い濃度であることから、健康影響について心配はいたしません。
 私は南相馬市の復興のために、これから10年間の行動がとても大切だと思えます。そこで皆様にはコロナ感染症対策で外出を控えるこの正月に「次の10年をどのように過ごすのがいいのか？」に思いを馳せて頂きたいのです。私も考えてみます。期待しています。